

第2部(2) 沖縄の振興・発展に向けた社会 資本整備

観光客1200万人時代に対応できる社会資本整備を推進していくために、次に掲げる取組を実施しています。

▶沖縄の振興・発展に向けた社会資本整備

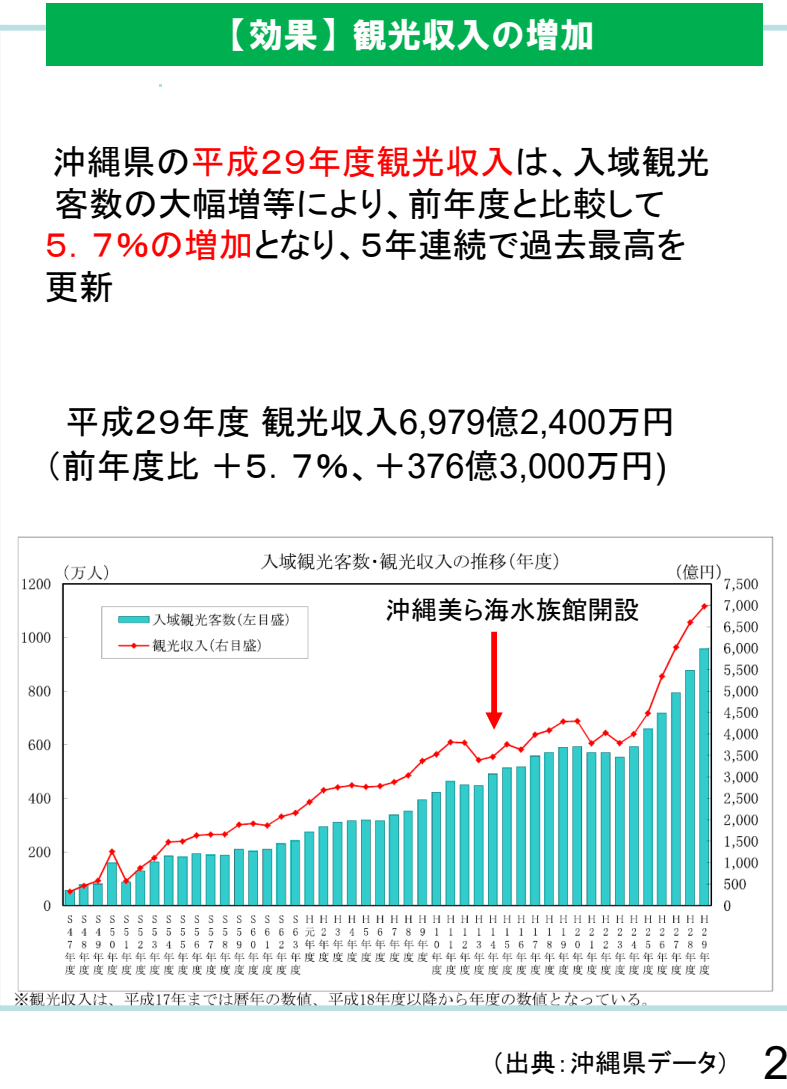
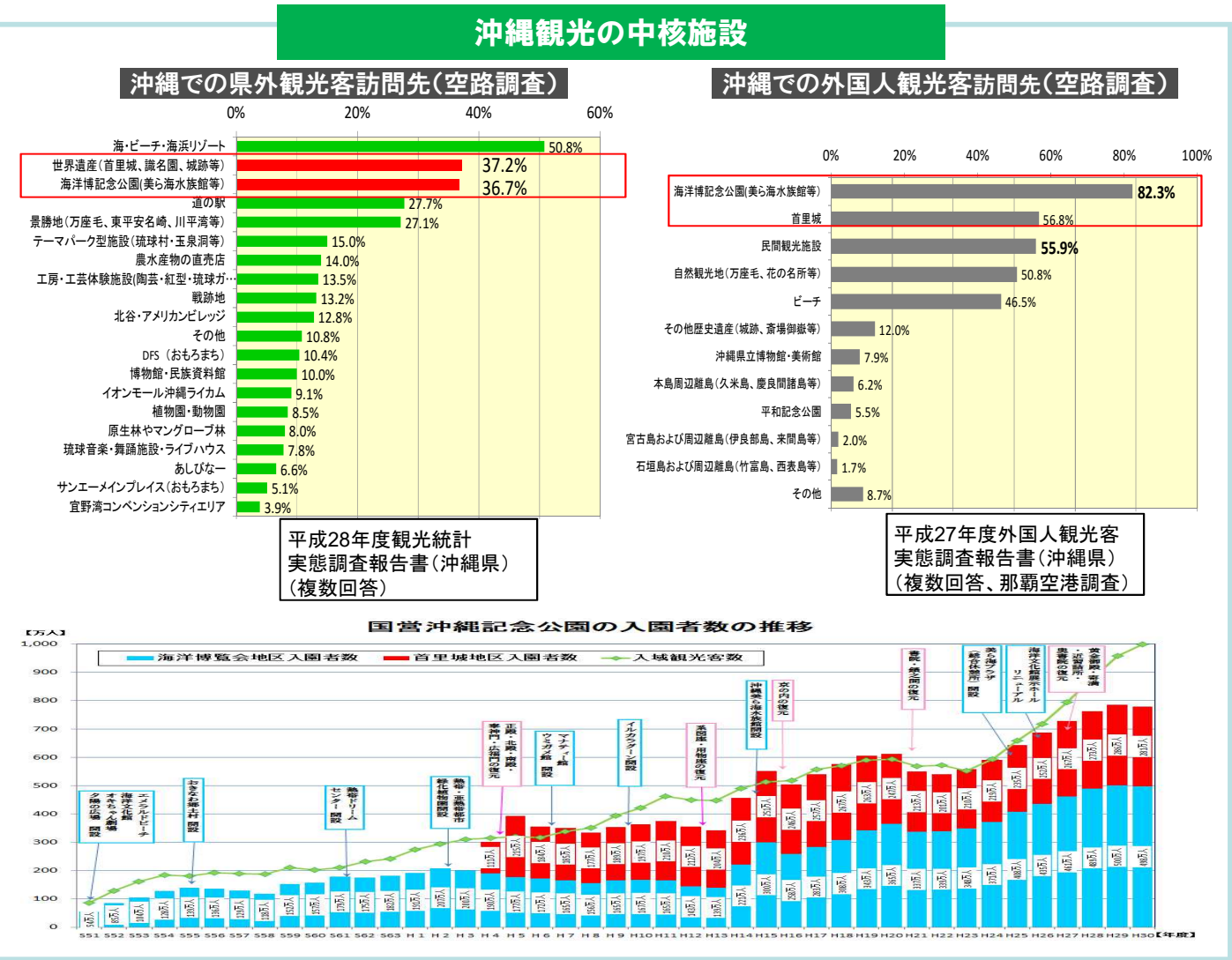
1. 観光資源の整備
2. 観光地等の地域支援
3. 交通網の整備
4. 情報発信の拡充

①国営沖縄記念公園は沖縄観光の中核施設

○国営沖縄記念公園(海洋博覧会地区、首里城地区)は、入園者数は約779万人と沖縄を訪れる県外観光客、外国人観光客の多くの方々が訪れる沖縄観光の中核施設となっている。

平成30年度の入園者数は海洋博覧会地区は約498万人(前年度比 0. 5%減)、首里城地区は約281万人(前年度比 1. 8%減)、海洋博覧会地区の入園者数が累計1億人を達成。

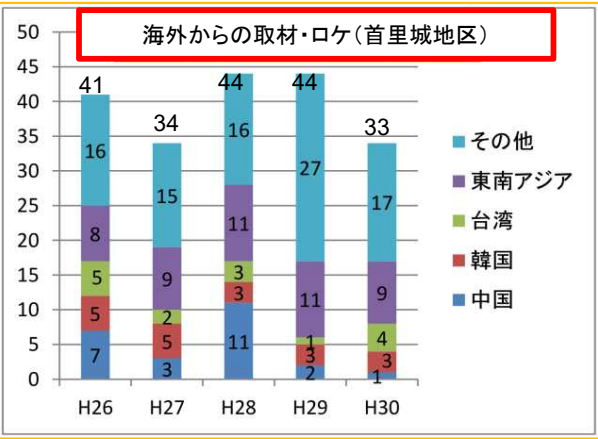
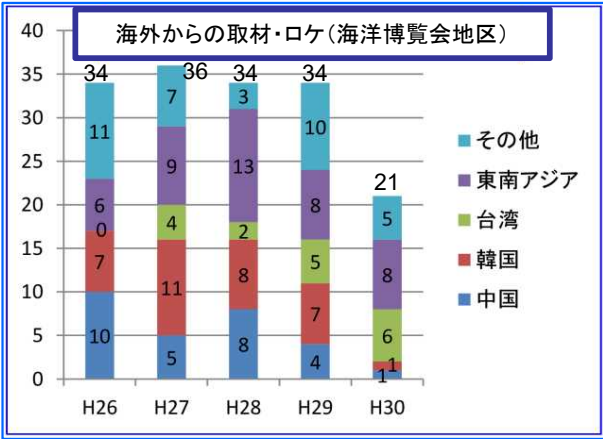
○沖縄県の観光収入は、平成25年度から5年連続で過去最高を更新しており、国営沖縄記念公園は観光振興に貢献している。



①沖縄観光の拠点として海外へ積極的にPR

- 国営沖縄記念公園では、沖縄の観光振興の中核として、OCVB(沖縄観光コンベンションビューロー)等と連携して海外への情報発信を行っており、また、海外での紹介状況からニーズ等についても把握していきます。
- 海外からの取材、ロケを積極的に受け入れ、様々な海外メディアによる情報発信を通じて、アジア、欧米、豪州など諸外国での沖縄観光等のPRに貢献しています。

- 香港のネットドラマ「天目危機」
ネットドラマのワンシーンを撮影
撮影：2018年7月17日
- モンゴル国営放送「NTVニュース」
ユニバーサルデザインについてJICAの研修で視察する様子を撮影
撮影：2019年1月30日
- 台湾のTV番組「GTV NEWS」
台湾人に人気の観光地として、沖縄美ら海水族館内にリポーターを配置し撮影
撮影：2018年5月23日
- アメリカ(ハワイ)のTV番組「Mixed Plate」の番組収録
ツアー参加者とレポーターが首里城公園内を散策している様子を撮影
撮影：2018年10月7日



香港ネットドラマ「天目危機」
撮影風景



モンゴル国営放送「NTVニュース」撮影風景



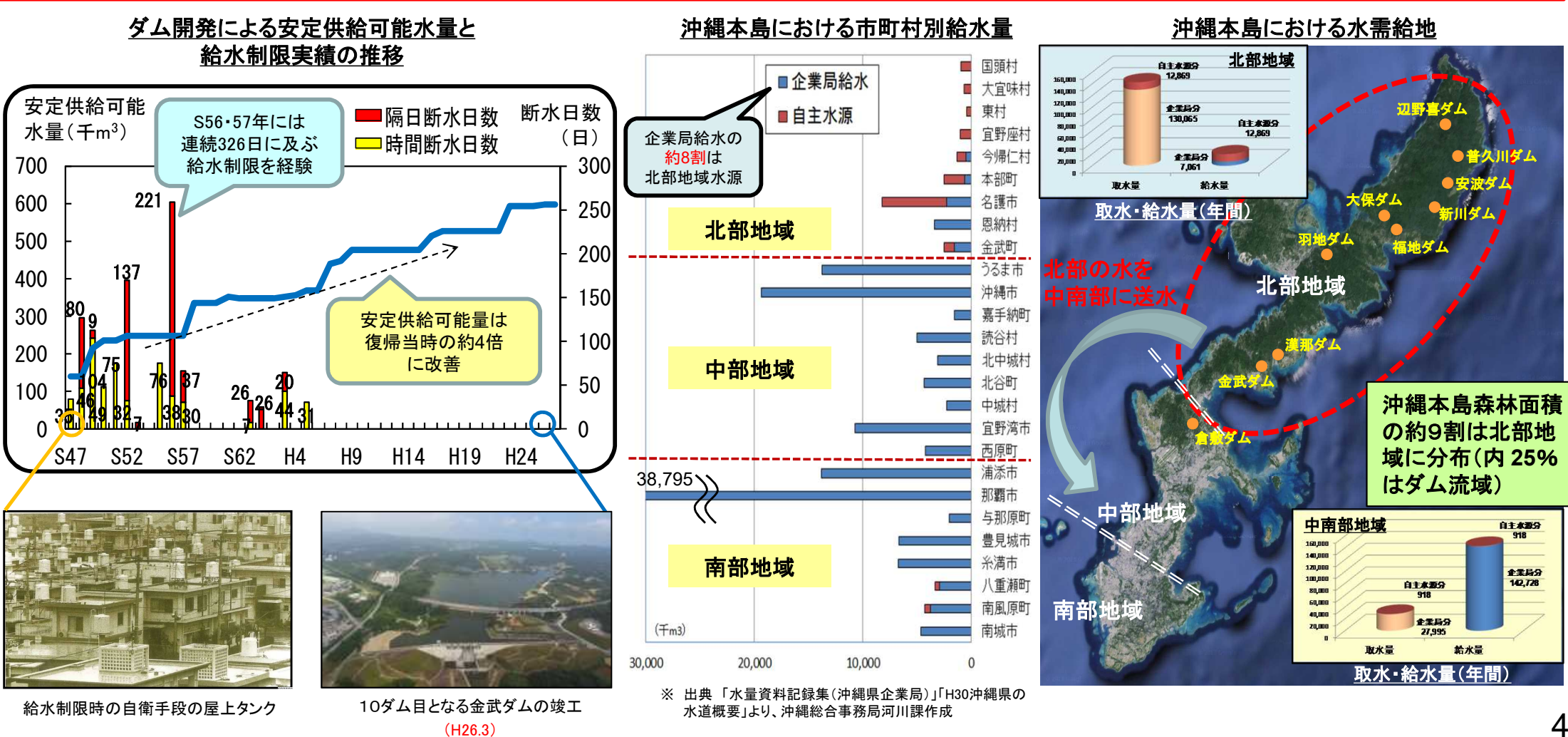
台湾放送のTV番組「GTV NEWS」放送状況



アメリカ(ハワイ)放送の
TV番組「Mixed Plate」撮影風景

1.観光資源の整備【沖縄県本島を支える北部地域の水源地】

- 多目的ダムが現在の水準まで整備される以前は、毎年のように給水制限(断水)が行われていた。復帰以降10ダムの建設を推進した結果、水事情は大幅に改善された。平成6年度以降は給水制限が実施されていない(H31年3月1日で連続給水満25年)など、沖縄県の経済発展、生活水準の向上に寄与。
- 水資源は主に北部やんばるのダムに依存している一方、消費地である中南部に人口及び経済活動が集中しており「北水南送」の状況。
- 沖縄の命の水を育むやんばるの水源地域の保全は、重要な課題。



2.観光地等の地域支援【沖縄北部ダムツーリズムの推進】

- 沖縄北部ダムツーリズムとは、ダムやダム湖における観光、エコツーリズムなどの水源地域の魅力ある活動。
- ダム毎に主要テーマを設定した管理施設メニュー、及びダム湖面等ダムエリア内でNPO等が実施するメニューをダムツーリズムとして整理・明確化。
- 水源地やんばるの自然やダム湖の魅力を活かした活動を通じて、森や水の大切さを広く認識してもらい、森や水を守るとともに、北部水源地の活性化を支援。



ダム名	主要テーマ	沖縄北部ダムツーリズム		地域圏域の主なメニュー
		ダム管理施設メニュー	NPO等が実施するメニュー	
漢那	ダム施設見学 環境学習	①ダム堤体の見学(景観設計) ②ダム内部の見学 ③本ダム右岸の魚道見学 ④本ダム下流のマングロープ生態系 ⑤貯水池上流に隣接する第二貯水池(自然観察広場)		・道の駅ぎのぞ ・かんなパークゴルフ ・宜野座村立博物館 ・松田鍾乳洞 ・宜野座村の体験ダイビング
羽地	小学生の社会見学	⑥ダム資料館(沖縄の水資源他(小学生向け)) ⑦川遊び&川の生き物観察		・羽地民泊 ・名護城トレッキング
福地	野外活動と学習	⑧ダム資料館(沖縄の水資源(大人向け))	⑩ダム湖での自然観察船(ゴンミキ号)の運航(東村ふるさと振興株式会社が運航) ⑪ダム湖でのカヌー体験(東村ふるさと振興株式会社が実施)	・山と水の生活博物館 ・村民の森つつじエコパーク ・沖縄やんばる海水湯水発電所 ・慶佐次湾のヒルギ林マングロープツアー&遊歩道散策 ・半日・一日農業体験 ・東村シュノーケルツアー
大保		⑨ダム資料館(環境保全対策)	⑬ぶながや湖カヌー体験&大保川清流トレッキング ⑭森と水辺のノルディックウォーキング ⑮森と水辺のサイクリング(以上、おおぎまるととツーリズム協会が実施)	・ター滝トレッキング ・道の駅大宜味
金武		⑩ダム資料館(徳首ダム事業)		・ネイチャーみらい館 ・徳首川マングロープカヌー体験
安波			⑯亜熱帯ジャングルカヌーと川遊び(国頭ツーリズム協会が実施)	・やんばる学びの森(ツアープログラム、学びのゾーン、遊びのゾーン) ・比地大滝トレッキング



2.観光地等の地域支援【日本ダムアワード2018「低水管理賞」受賞】

○沖縄北部5ダムが日本ダムアワード2018「低水管理賞」を受賞し、平成31年2月25日に福地ダムにおいてダムアワードプレゼンターの萩原氏より記念品の授与が行われました。



萩原氏を囲んでミス沖縄とダム統管職員と記念撮影

○プレゼンターの萩原氏からは、受賞理由として、沖縄では毎日のようにTVや新聞で貯水率が報道され、県民が一丸となって湧水を認識し水を大切に用いていたこと、沖縄北部5ダムがうまく連携（統合運用）して水を有効活用したことが評価されたと紹介されました。



北部5ダム統合運用の要の福地ダム



盾を受け取る新垣統管所長



頂いた記念盾

当日は沖縄観光親善使節として沖縄の魅力を国内外に伝えるミス沖縄2019の3名が大保ダムと福地ダムでダム研修を行っており、記念品授与式にも参加してくれました。



福地ダム管理支所での座学



大保ダムでの現地研修

- 平成30年渇水における沖縄のダム群の対応について、ダムファン有志が今年一年間活躍したダムを讃える2018日本ダムアワードにおいて、『低水管理賞』に選定された。
- 日本ダムアワードとは、「ダムファン有志による選考委員が様々な角度から活躍したダムをノミネート。選考委員と観客の皆さんによる投票で、各部門で今年もっとも印象に残る働きをしたダムを選出し、その功績を讃えよう」というイベント(以下の写真含め、日本ダムアワード公式HPより)



沖縄北部5ダムを代表して福地ダム Photo by: だい



【写真左】選考会の様子(およそ150名の参加者投票で部門賞を選定)
【写真右】各部門の表彰盾(左より「放流賞」、「ライトアップ賞」、「低水管理賞」、「ダム大賞」、「イベント賞」、「洪水調節賞」)



【低水管理賞】
当該年においてもっとも印象に残った低水管理(利水補給)を行ったダムに授与。
(盾は、平成31年2月25日に選考委員が来沖され、福地ダムにおいて直接授与されました)

沖縄北部5ダム(沖縄県／内閣府沖縄総合事務局)

低水管理賞ノミネート(全5候補)

ダム名	所在地	事業者
皆瀬ダム	秋田県	秋田県
水窪ダム	山形県	米沢平野土地改良区
新宮川ダム	福島県	福島県
栃ヶ原ダム・後谷ダム	新潟県	農林水産省
沖縄北部5ダム	沖縄県	内閣府沖縄総合事務局

2.観光地等の地域支援【「道の駅」による地域活性化(物産,観光,防災)】 沖縄総合事務局

- 沖縄県内の「道の駅」は8駅（全国1,154駅 ※平成31年4月時点）。
- 地域の個性・魅力を活かして、物産、観光、防災面で、地域活性化に貢献。

「旅好きが選ぶ！道の駅 ランキング2018 TOP30」： 県内8駅中3駅がランクイン
10位「道の駅」豊崎、17位「道の駅」許田、25位「道の駅」ゆいゆい国頭
(旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」発表)



道路情報・観光情報提供



農産物直販所



観光案内所



イベント広場



道路情報ターミナル



お魚センター



情報ステーション・休憩スペース



展望台から嘉手納基地一望

2.観光地等の地域支援【地域に根ざした「道の駅」】

- 「道の駅」では、そこでしか買えない、新鮮な地元特産品等を販売。
- 高齢者農家や学生との連携など、地元と密着した活動を推進(農家の育成や収入増にも貢献)。

- 「道の駅」で、**地産地消を促進するイベントを開催**
- 規格外農産物(イチゴ)をケーキに加工し販売、**農家の収益に寄与**



地産地消を促進するイベント開催
(宜野座村産業祭り)



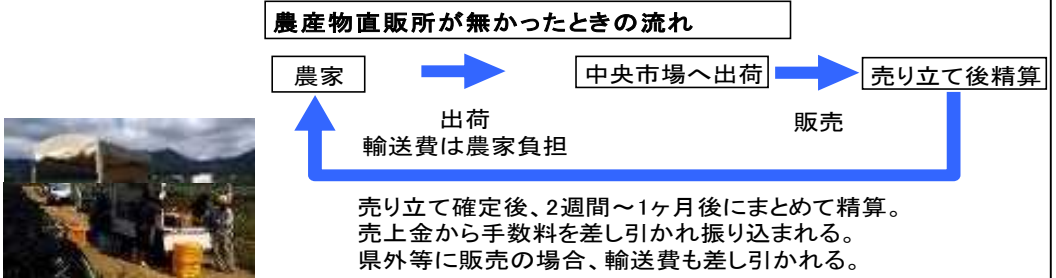
人気商品となった地元フルーツを使ったショートケーキ



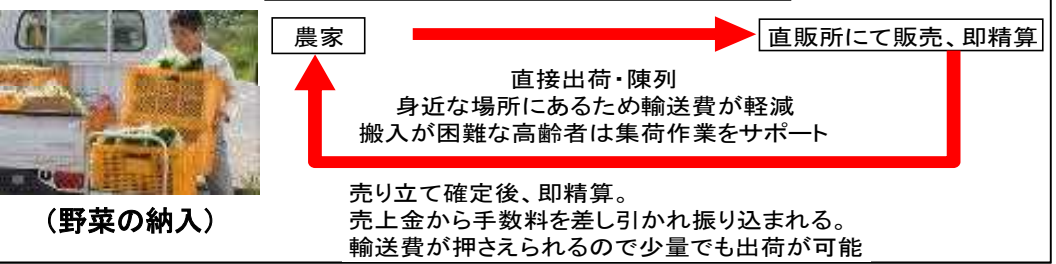
規格外農産物を加工販売
地元農家の収益に寄与

○高齢者農家支援として、「道の駅」職員による集荷作業を実施 (「道の駅」ゆいゆい国頭、「道の駅」許田)

・輸送費軽減及び新たな収益の場の提供
農家の収益が増加することにより、安定して農業に従事することが出来、農業離れの歯止めを図る。



(パインの集荷)



(野菜の納入)

- 「道の駅」と大学が連携し、大学生のアイデアによる観光プランや情報発信手法の提案や新たな特産品の商品開発などを進める
- 地元農林高校と老舗菓子店による特産品を活用した商品開発(ちんすこうにアグー脂を使った「きんそう」)(「道の駅」許田)



名桜大学と「道の駅」と国道事務所との連携協定調印式



(地元高校生による商品の製造と販売PR)



○地元特産品の販売(「道の駅」喜名番所を除く各駅)



(販わう販売所)



(野菜)



(魚)



(果物)



(地元特産・マンゴー)



(地元特産・パイン)

3.交通網の整備【那覇空港滑走路増設事業】

○那覇空港滑走路増設事業については、平成26年1月に工事着手しており、現在は埋立が概成し、舗装工事等を実施中。

○令和2年3月末に供用開始することをめざし、引き続き事業を推進。

○ 現況

- ・滑走路：3,000m
- ・旅客実績：（国内）1,763万人、（国際）391万人（平成30年度 過去最高）
- ・主要路線：（国内）155往復/日（2019年夏季ダイヤ）東京(31)、福岡(20)、関西(12)、中部(12)、成田(5)、石垣(18)、宮古(14)等（国際）226往復/週ソウル(56)、台北(56)、上海(21)、香港(27)等（貨物）35往復/週成田(5)、羽田(5)、関西(5)、上海(5)、香港(5)、ソウル(5)、台北(5)等
- ・国内LCC就航状況：ジェットスター・ジャパン（成田(3)、関西(2)、中部(1)）ピーチ・アビエーション（関西(3)、福岡(2)）バニリア（成田(1)、石垣(2)）

○ 空港整備事業の概要



安倍総理大臣による施政方針演説

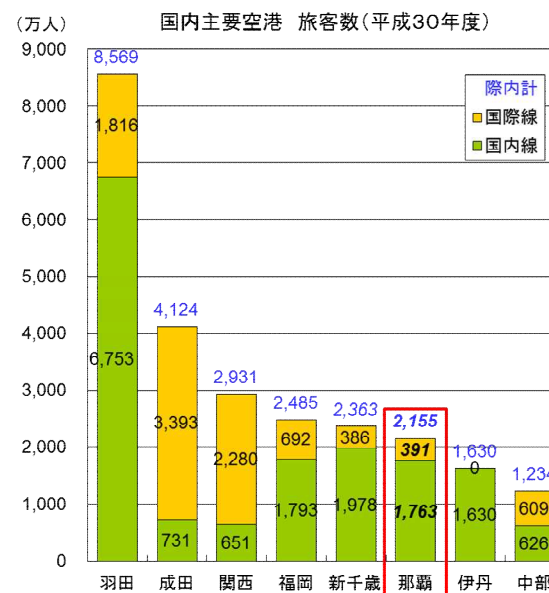
<H26.1.24 第186回国会>

- ・アジアと日本をつなぐゲートウェイ。それは沖縄です。
- ・アジアとの物流のハブであり、観光客を迎える玄関口として、那覇空港第2滑走路は日本の成長のために不可欠です。予定を前倒し、今月から着工いたしました。工期を短縮し、2019年度末に供用を開始します。

<H27.2.12 第189回国会>

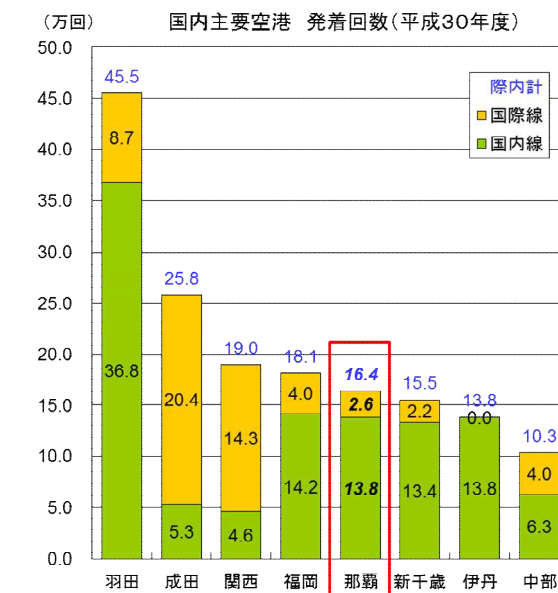
- ・アジアとの物流のハブである沖縄では、那覇空港第2滑走路の建設を進めます。

那覇空港は、国内の滑走路1本の空港としては旅客数・発着回数とも第2位



滑走路本数 4 2 2 1 2 1 2 1

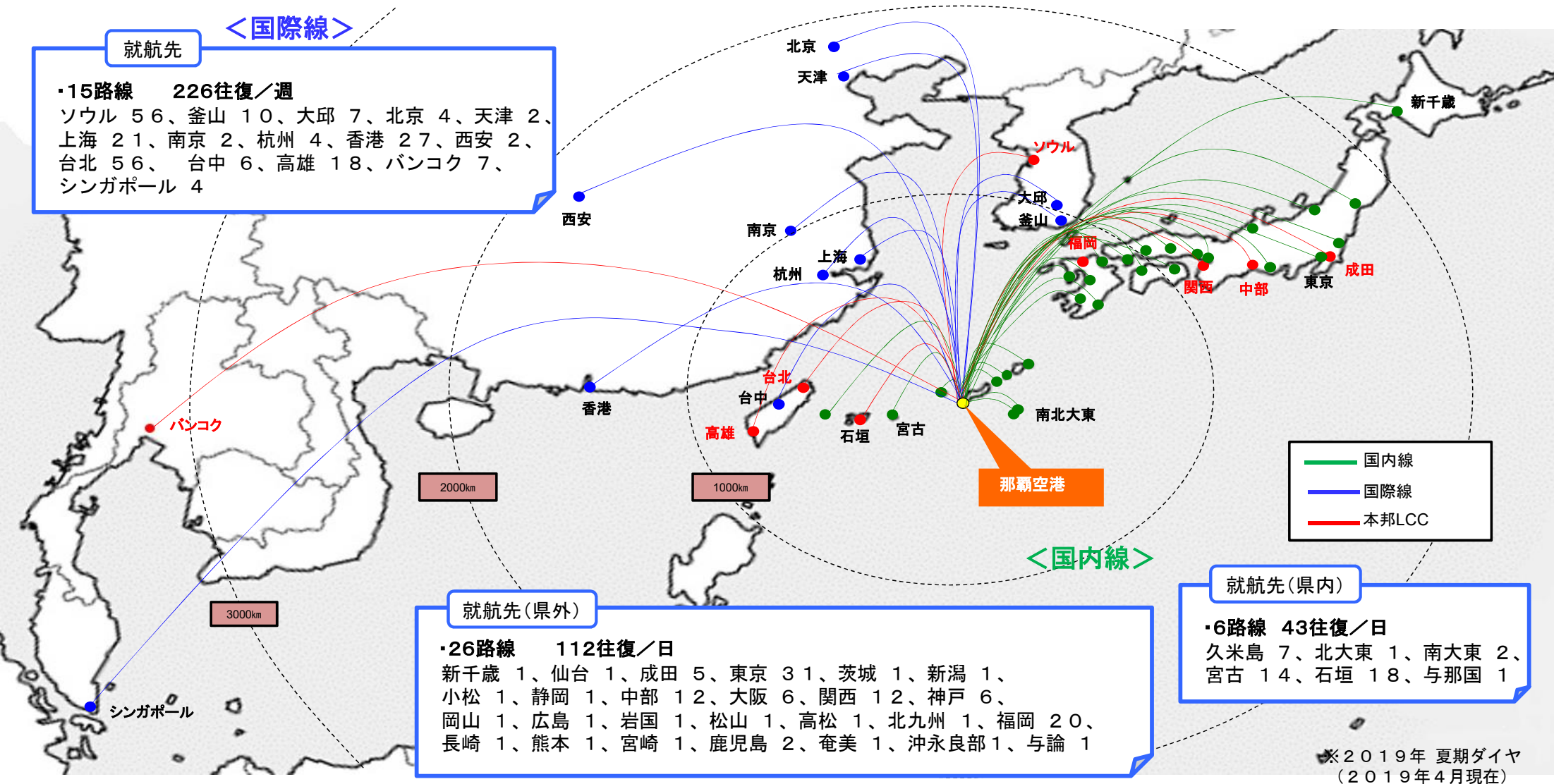
出典：空港管理状況調査(国土交通省)



滑走路本数 4 2 2 1 1 2 2 1

3.交通網の整備【那覇空港の就航路線】

- 国際線 15路線に就航。
- 沖縄県外の空港との間に26路線が就航。
- 沖縄県内の拠点となっており、県内の離島との間に6路線が就航。



3.交通網の整備【那覇空港 国際線ターミナル地域再編事業】

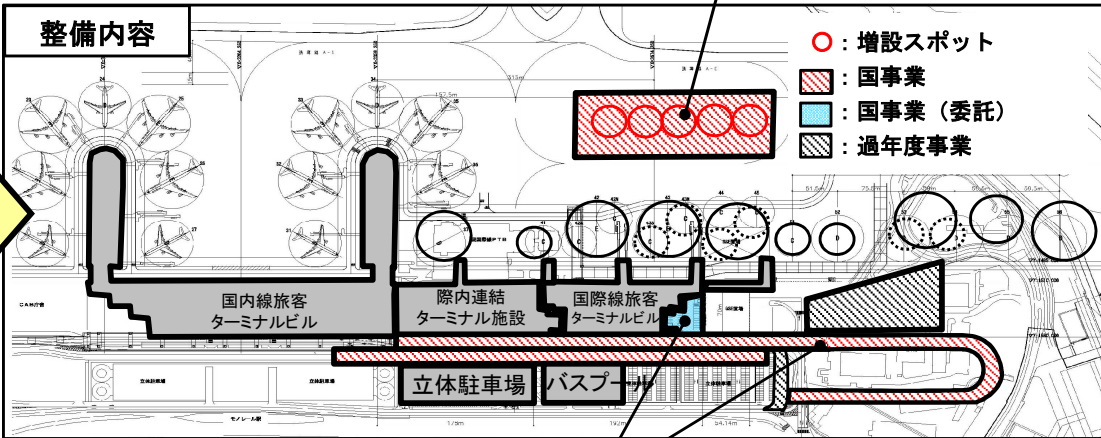
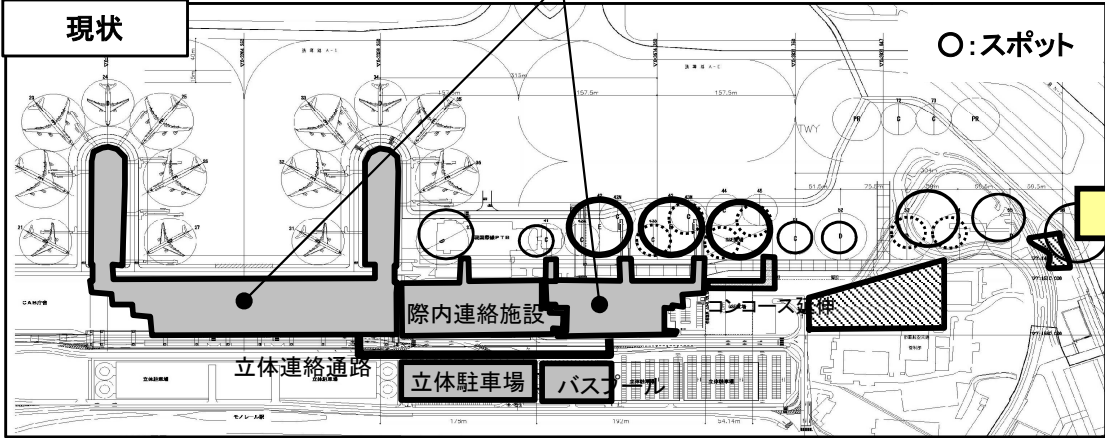
- 那覇空港では、国際航空需要の増加に伴う施設の狭隘化・老朽化に対応するため、平成21年度から国際線ターミナル地域再編整備を実施しており、国際線旅客ターミナルビルを国及び民間にて整備し、平成26年2月に供用を開始した。また、国際線ターミナルビルの機能向上のため、平成29年より際内連絡施設について整備を開始し、平成31年3月に供用を開始した。
- 国際線需要の増加による混雑及び増設滑走路の供用により増加が見込まれる航空需要へ対応するため、エプロン拡張、国際線ターミナルビルの機能向上(CIQ施設、高架道路延伸)等に必要な整備を引き続き実施する。

国内線ビル、国際線ビル入国審査場の混雑状況



エプロンの拡張

エプロン拡張を実施し、将来的に増加が見込まれる航空需要へ対応します。



※ CIQ : 税関(Customs)、出入国管理(Immigration)、検疫(Quarantine)

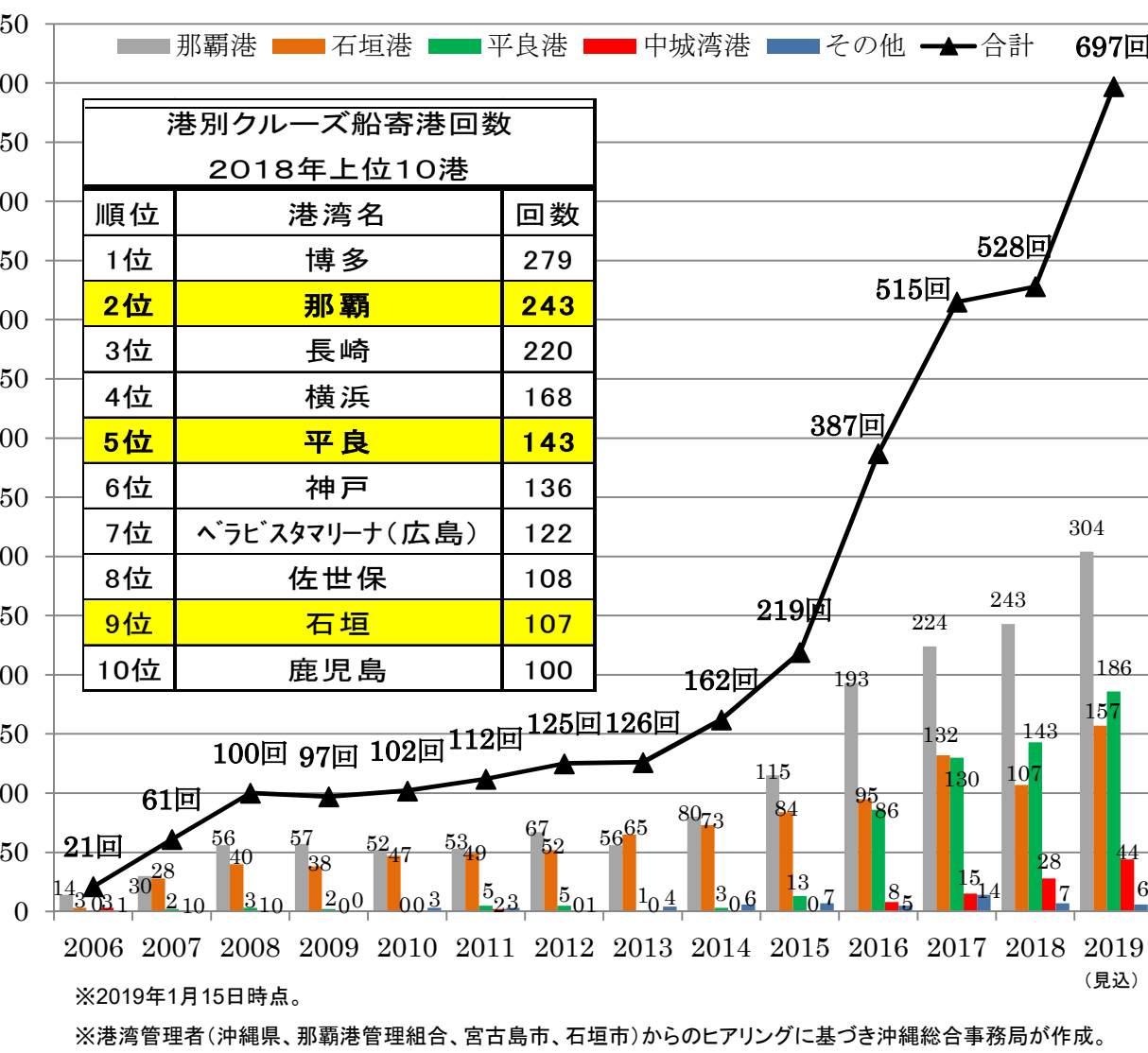
ターミナルビルの機能向上

国際線ターミナルビルの機能向上(CIQ※施設、高架道路延伸)に必要な整備を実施し、ターミナルビルの旅客処理能力等を向上します。

3.交通網の整備【寄港増加・大型化する沖縄のクルーズ船】

○2018年の沖縄県内へのクルーズ船の寄港は528回となり、2017年(515回)から前年比2. 5%増と過去最多を記録。
○一方、全国の港別ランキングでは、那覇港が順位を1つ上げ、博多港に続く第2位、平良港は第5位、石垣港が第9位と前年同様、沖縄から3港がトップテンにランクイン。

(回) 【沖縄へのクルーズ船の寄港回数の推移】



【沖縄県内へ寄港するクルーズ船の最近の動向】

- ・沖縄には、「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」(米国、16万トン級、4,180人乗り)等アジアに寄港する最大クラスの船舶が寄港するなど、県内においても大型化が進行している。
※沖縄に寄港したクルーズ船のうち12.5万トン級以上の船舶の割合
2016年:7.2%→2017年:14.4%→2018年:21.4%
※沖縄に寄港しているその他の16万トン級クルーズ船
オベーション・オブ・ザ・シーズ:167,800トン、全長348m
ノルウェー جان・ジョイ:167,725トン、全長333.4m
- ・2017年7月26日に平良港に寄港した「ゲンティン・ドリーム」の消費額は、約1.3億円(乗客平均消費額 約3.8万円/人)。
※沖縄県宮古事務所による調査
- ・沖縄県が実施したアンケート調査によると2017年の外国人海路客の一人あたりの観光消費単価は約3万円/人。
※平成29年沖縄県観光統計実態調査(H30.9公表)



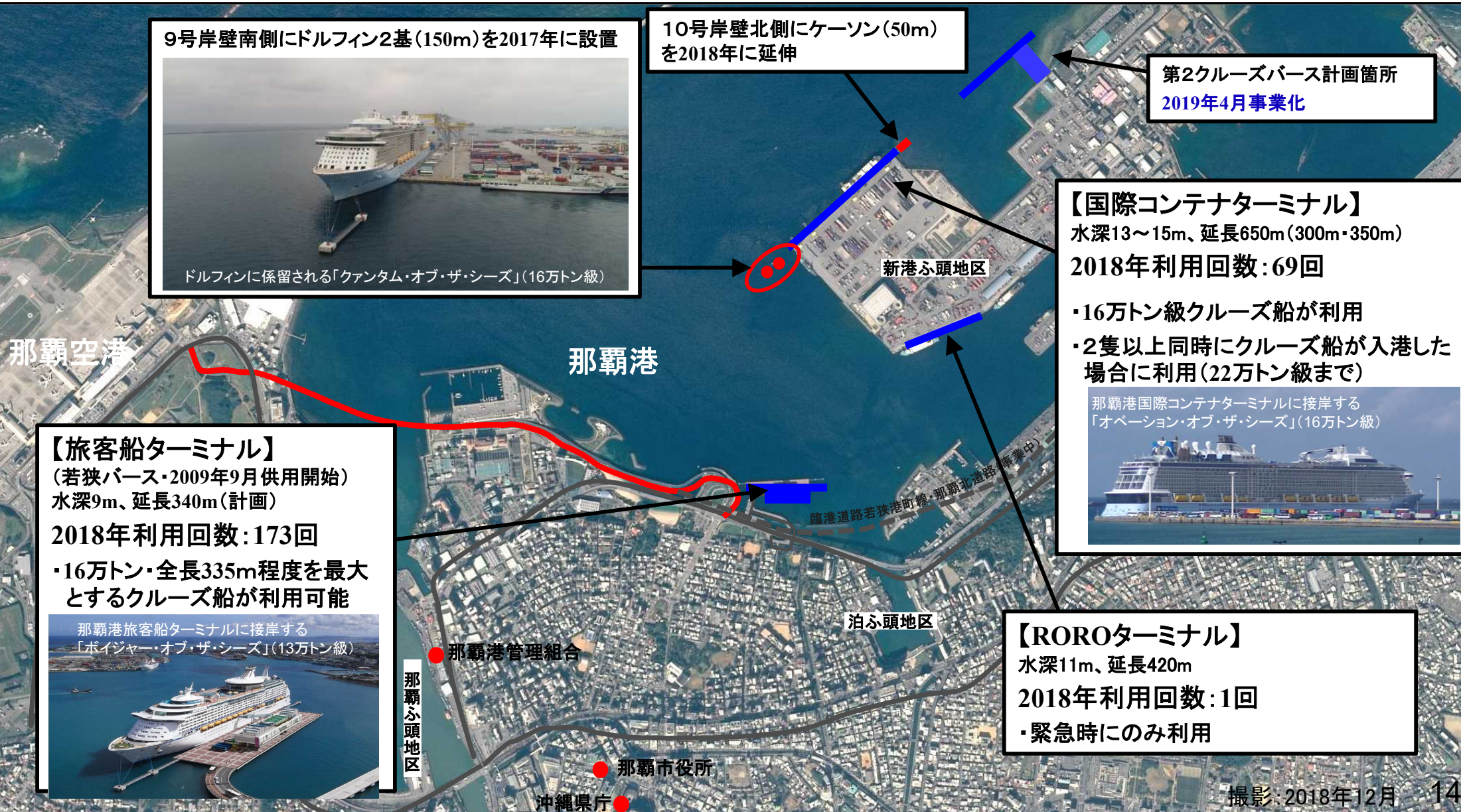
クアンタム・オブ・ザ・シーズ【那覇港】
(総トン数:168,666トン、全長347m)



ゲンティン・ドリーム【平良港】
(総トン数:151,300トン、全長335m)

3.交通網の整備【那覇港のクルーズ船の受入れ(既存岸壁の活用)】

- 那覇港のクルーズ船について、2017年は224回寄港、2018年は243回寄港し、過去最高を更新。
- 2018年は、2隻同時寄港は計47回を記録。
- クルーズターミナルや物流ターミナルなどを活用し、寄港増・大型化に対応。



3.交通網の整備【石垣港のクルーズ船の受入れ】

- 石垣港においてはこれまで7万トン級までのクルーズ船を浜崎町地区貨物岸壁で、それを超えるクルーズ船については沖泊で受入れていた。
- 現在、整備に取り組んでいるクルーズ船専用岸壁が、2018年4月21日に一部を暫定供用し、7万トン級までのクルーズ船の受け入れを開始した。
- また、近年のクルーズ船の大型化を踏まえ、石垣港地方港湾審議会(2017年5月17日)を経て岸壁スペックを水深9m・延長340mから水深10.5m・延長420mに変更したところ。これにより、20万トン級のクルーズ船も受け入れ可能となる予定。

現
状

石垣港の船舶の混雑

貨物岸壁を利用するクルーズ船

通常と異なる岸壁で荷役を行うRORO船

沖泊めするクルーズ船

主な定期航路	航路	便数
内航RORO船	那覇～平良～石垣	2便/週
内航一般貨物船	那覇～平良～石垣	2便/週
国際RORO船	那覇～平良～石垣～高雄	1便/週



対
応
方
針

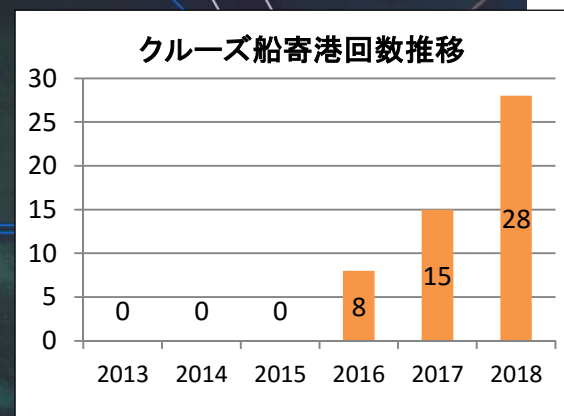
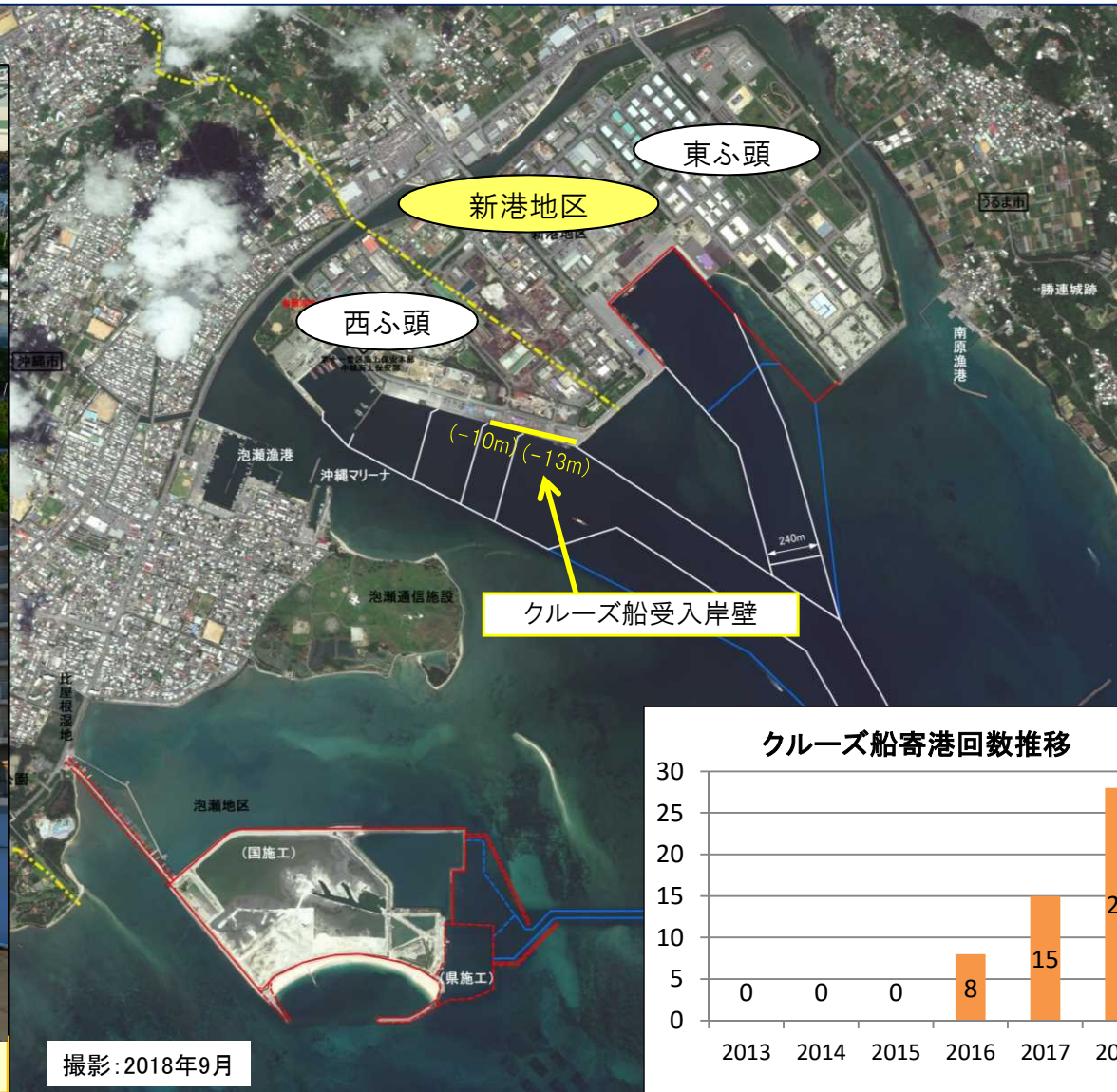


○第190回国会における安倍内閣総理大臣 施政方針演説(2016年1月22日)

- ・沖縄・石垣港を訪れる大型クルーズ船は、この3年で2倍近くに増えました。
- ・町で石垣牛を食べ、お土産に黒糖を買う。周辺の島へと足を伸ばす観光客もいて島々が沸いています。2年後(2018年春)の供用開始に向け、新しい岸壁の整備を進めます。アジアとのハブである沖縄の成長の可能性を開花させるため、今年度を上回る予算を確保してまいります。

3.交通網の整備【中城湾港のクルーズ船の受入れ】

- ・2017年7月までは5万トン級までのクルーズ船が受け入れ可能であったが、近年のクルーズ船の大型化を踏まえ、岸壁の改良(係船柱や防舷材の強化)や航行安全検討を行い、2017年8月より16万トン級のクルーズ船が受け入れ可能になった。なお、2018年3月に「**クアンタム オブ ザ シーズ(16万トン級)**」が初寄港した。
- ・2018年のクルーズ船寄港回数は28回を記録。



3.交通網の整備【那覇港のクルーズ船受入れ(国際旅客船拠点形成計画書の概要)】

連携する船社	MSCクルーズ(MSC社)、ロイヤル・カリビアン・クルーズ(RCL社)
国際クルーズ拠点形成の目標	東洋のカリブ構想の実現に向け、那覇港発着のフライ&クルーズの推進など国際クルーズの拠点化を図ることにより、質の高い世界水準の国際観光リゾート地の実現を目指す
寄港回数目標	運用開始年(2022年):108回 目標年(2030年):205回

係留施設の利用に関する考え方

・MSC社・RCL社は旅客施設の整備・所有をすることにより、クルーズ船専用岸壁について、優先的な利用を認める。

優先的な利用予約できる日数:毎年最大250日

優先的な利用予約の存続期間:30年間

優先的な利用予約の実施時期:

係留施設を利用する日の前々年の1月1日から同年6月30日までの間に、係留施設の利用予約を行い、確定させる。

・係留施設を利用する日の前々年の7月1日以降の利用予約については、MSC社及びRCL社と他のクルーズ船社を平等に取り扱う。

■新港ふ頭地区

○**MSC社・RCL社**が、東アジアのクルーズ拠点として優先的に使用予定。

◆新港地区12~13号岸壁

(22万トン級(計画))

◆旅客ターミナルビル<MSC社・RCL社>

○MSC社・RCL社がCIQホール、待合所、商業施設、観光案内所等を有する旅客ターミナルビルを整備



オアシス・オブ・ザ・シーズ

(22万トン級、全長360m
乗客定員5,484人)



MSCスプレディダ

(13万トン級、全長333m
乗客定員3,274人)

■泊ふ頭地区

◆泊ふ頭8号岸壁(既設)

3.交通網の整備【本部港のクルーズ船受入れ(国際旅客船拠点形成計画書の概要)】

連携する船社	ゲンティン香港
拠点形成の目標	国際クルーズ船拠点を形成することにより、北部地域の豊かな自然環境を活用したエコツーリズムや海洋レジャーの促進、新たな観光ルートの形成など、沖縄本島北部地域の振興に資する観光拠点を目指す。
寄港回数	運用開始年 (2020年):88回 目標年 (2030年):104回

国際旅客船取扱埠頭高度化事業

○本部地区岸壁(整備主体:沖縄県)

2020年に竣工予定の20万トン級クルーズ船(全長343m、喫水9.5m、乗客定員約5,000人)対応するための岸壁整備

岸壁延長:420m(増深改良220m+延伸200m)

岸壁水深:10.5m

○旅客施設(整備主体:ゲンティン香港)

CIQホール、待合所、観光案内所等を有する2,400㎡の旅客施設を整備(詳細は協議の上決定)

岸壁の利用に係る考え方

○ゲンティン香港は、他者に先立ち、岸壁の利用を優先的に予約できる。

優先予約可能日数: 年間150日

(H32は、年間100日)

優先予約存続期間: 15年間

優先約実施時期: 寄港を予定する年(暦年)の1年6カ月前から1年前まで

○岸壁の優先予約実施時期以降は、他の船舶の利用受付を開始する。

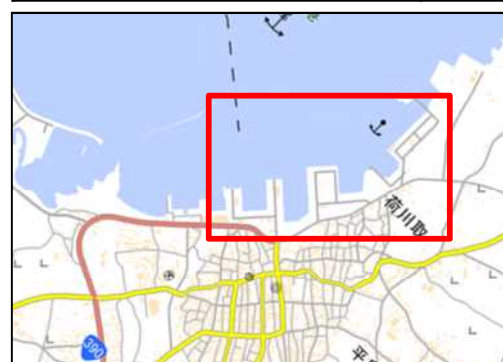
その他、国際旅客船拠点形成計画の実施のため以下に取り組む。

○クルーズ船寄港時に想定される交通混雑対策として、観光バス・タクシーが一度に集中することのないよう港の近辺に、バス待機所等を確保できるように検討する。



3.交通網の整備【平良港のクルーズ船受入れ(国際旅客船拠点形成計画書の概要)】

連携する船社	Carnival Corporation & plc Asia Pte. Ltd. (カーニバル社)
拠点形成の目標	○供用開始年には東アジアの主要な寄港地を目標とし、供用開始後10年以内にフライ&クルーズの拠点港を目標とする。
寄港回数の目標	運用開始年(2020年):250回 目標年 (2026年):310回



国際旅客船取扱埠頭高度化事業

【国が実施する事業】 大型クルーズ船(対象船舶:14万トン級)が寄港可能となるクルーズ船専用岸壁、航路泊地、泊地及び臨港道路の整備
【カーニバル社が実施する事業】 旅客ターミナルビルの整備

クルーズ船専用岸壁の利用に係る考え方

○クルーズ船専用岸壁並びに旅客ターミナル等が供用された場合カーニバル社は、他者に先立ち、同岸壁の利用を優先的に予約できる。

優先的に利用予約できる日数:年間300日

優先的な利用予約の存続期間:20年間

優先的な利用予約の実施時期:寄港を予定する年(暦年の前々年の7月1日から12月31日まで)

○係留施設の優先的な予約を行う期日以降に行う同岸壁の利用予約については、カーニバル社と他の船社を平等に取り扱う。

その他、国際旅客船拠点形成計画の実施のため以下に取り組む。
○平良港から発生集中する二次交通等の渋滞緩和に向けた取組
○行政・民間など様々な団体から構成される「宮古島クルーズ客船誘致・受入環境整備連絡協議会」における、交通量に関する調査及び渋滞対策に関する協議を定期的に行う取組

3.交通網の整備【竹富南航路の整備】

- 竹富南航路は、八重山諸島の中心である石垣島と小浜島、黒島等の周辺の島々を結ぶ唯一の航路である。住民の生活航路として、また観光航路として重要な役割を果たしている。
- 当該海域は浅瀬が多く日中のみの運航に制限されており、地域住民や来訪者が利用する船舶航行の安全を確保する必要がある。
- 国内でも有数のサンゴ礁海域である石西礁湖に位置するため、環境へ配慮した取り組みを行っている。

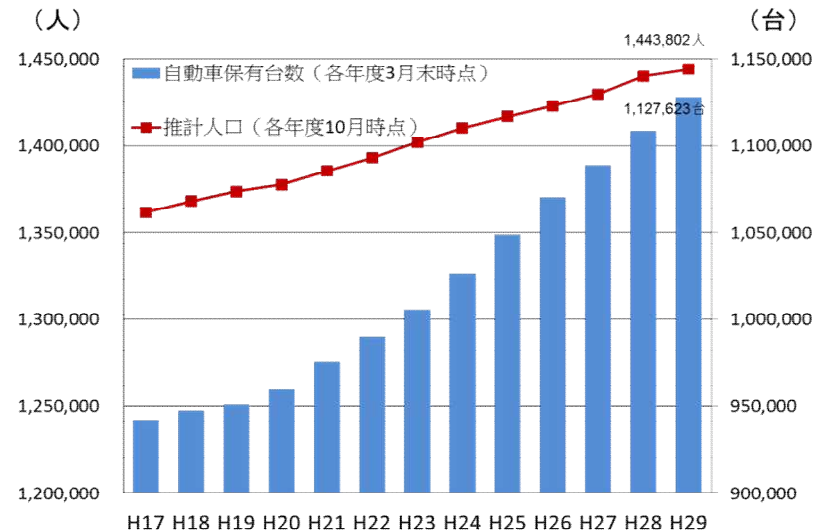
【竹富南航路】住民の生活航路、観光航路として島々を結ぶ唯一の航路



3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(1)】

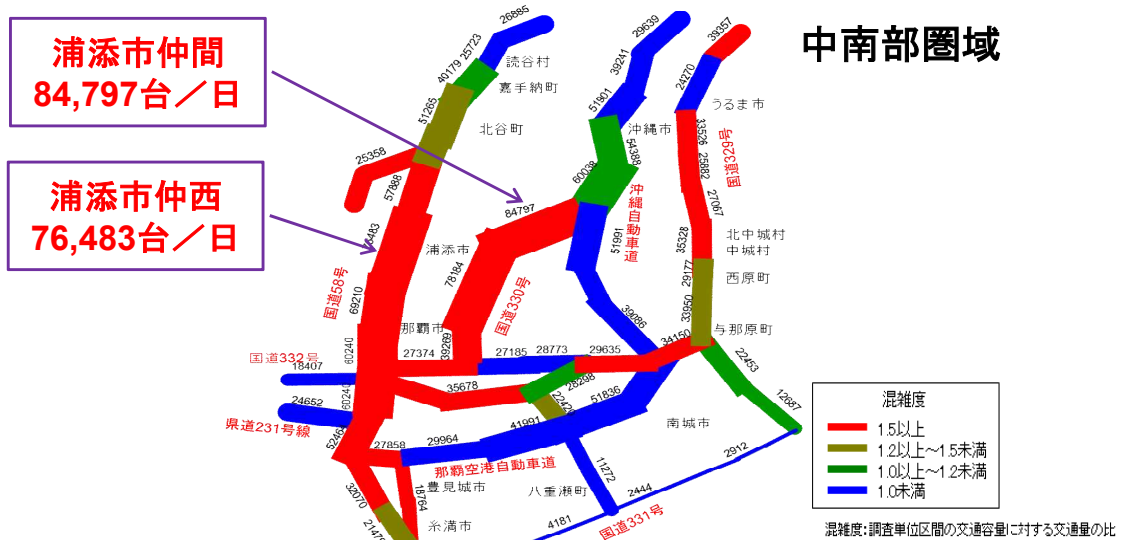
○人口・自動車数の増加に伴い、中南部圏域の交通容量が不足しているため慢性的な交通渋滞が発生。
 ○観光客も含め、県民の足が自動車に依存しており、道路ネットワーク整備とソフト対策が急務。

◆沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



【沖縄県の推計人口と自動車保有台数の推移】

◆中南部圏域の主要幹線は容量オーバー

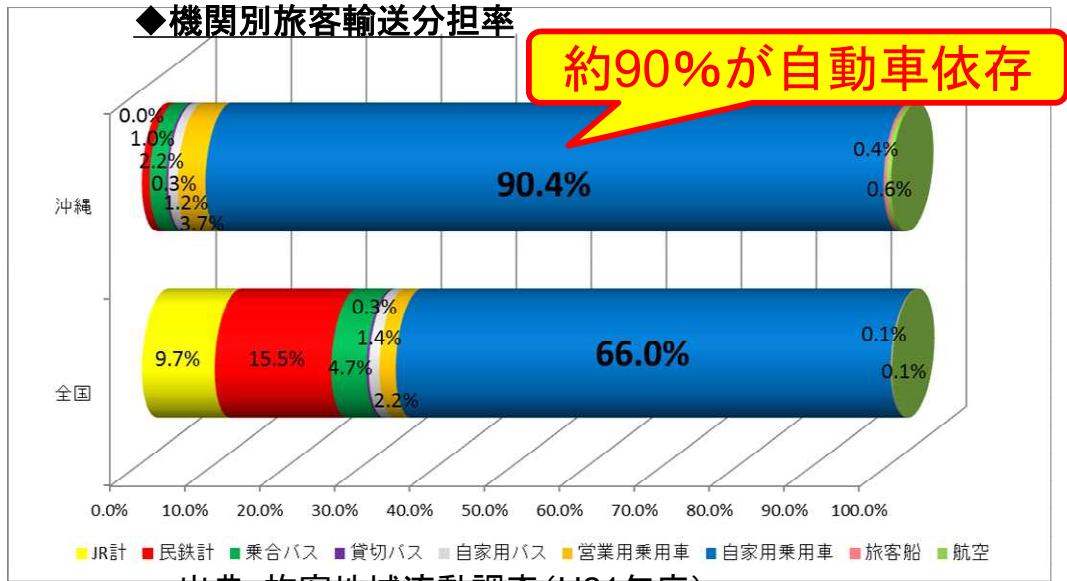


中南部圏域

混雑度: 調査単位区間の交通容量に対する交通量の比

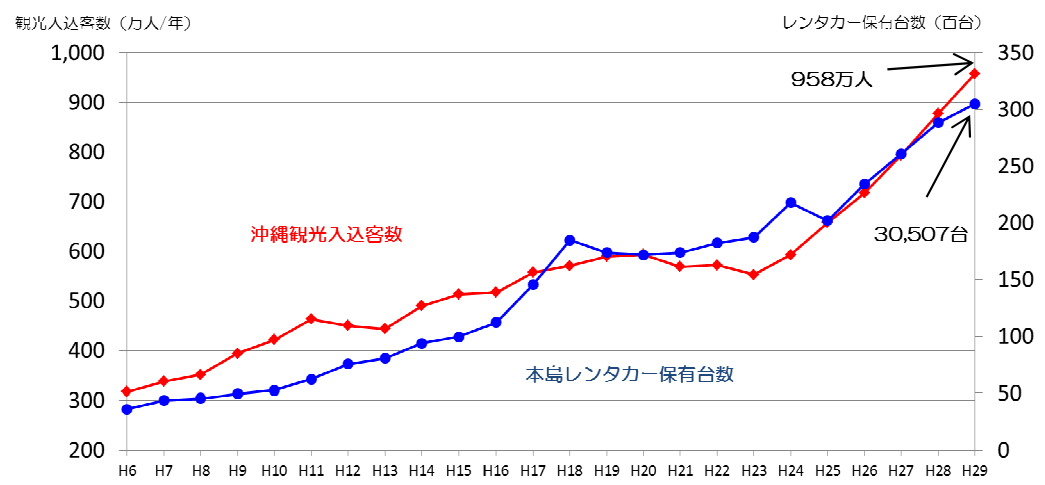
【H27年度区間別交通量図】

◆機関別旅客輸送分担率



出典: 旅客地域流動調査(H21年度)

◆観光客の移動手段はレンタカー

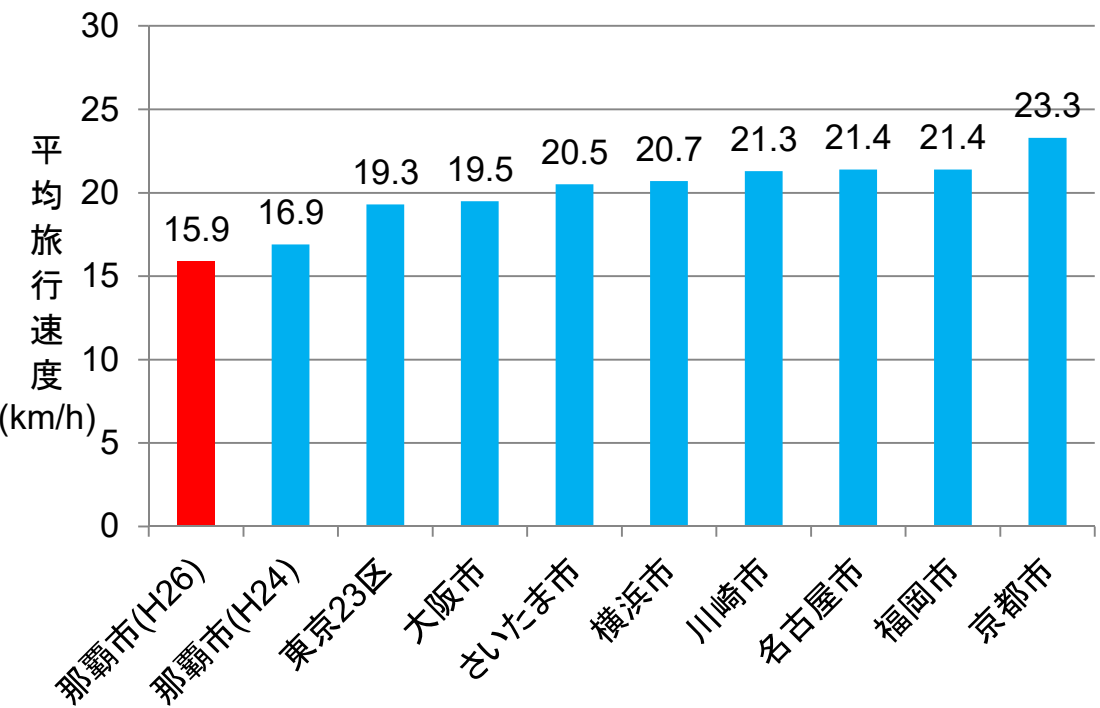


【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移】

出典: 平成30年度入域観光客統計概況(沖縄県)、H30年度版 運輸要覧・業務概況(沖縄総合事務局)

3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(2)】

◆那覇市内の速度は全国ワーストクラス



【平日混雑時平均旅行速度の比較】
(データ:H24プローブデータ)



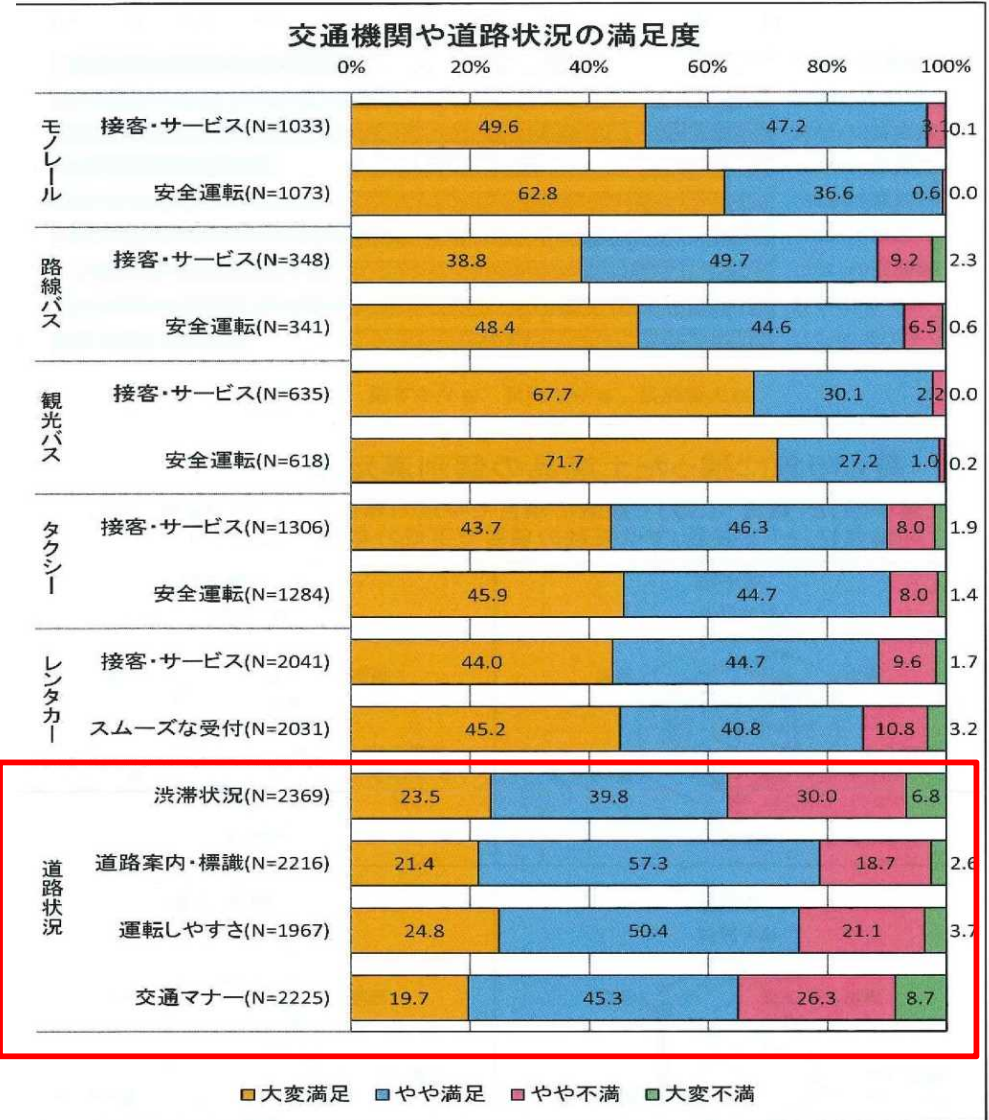
R58号 那覇市前島



R58号 那覇市泊

◆ 交通機関や道路状況の満足度

- 「道路状況」については全体的に不満を感じる比率が多い。特に『渋滞状況』や『交通マナー』では“やや不満”“大変不満”が3割を超える。
- 「観光バス」は『接客・サービス』『安全運転』ともに他に比べ“大変満足”の比率が多い。



■ 大変満足 ■ やや満足 ■ やや不満 ■ 大変不満

出典: 沖縄観光の満足度(平成24年度 観光統計実態調査(沖縄県))

3.交通網の整備【道路ネットワーク(ハシゴ道路)】

【ハシゴ道路】

- 長期間を要する事業ほど、段階的な進捗と効果の発現を示すことが重要
- 3本柱において、交通配分にアンバランスが発生(沖縄自動車道への交通を配分)
- 交通の集中する西海岸、特に2環状と放射道路が重なる箇所を重点整備

■南北を走る強固な【3本の柱】

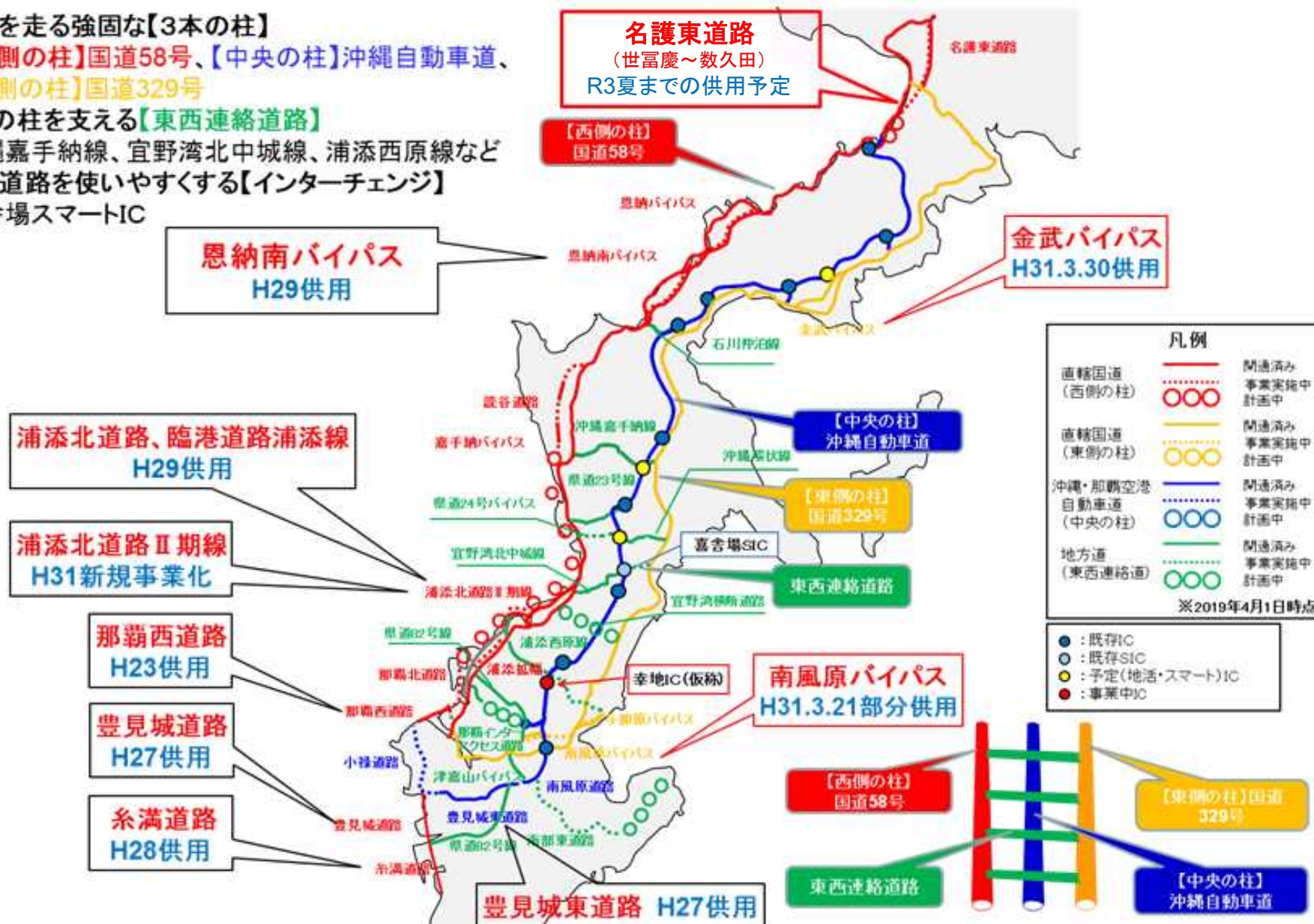
【西側の柱】国道58号、【中央の柱】沖縄自動車道、
【東側の柱】国道329号

■3本の柱を支える【東西連絡道路】

沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など

■高速道路を使いやすくする【インターチェンジ】

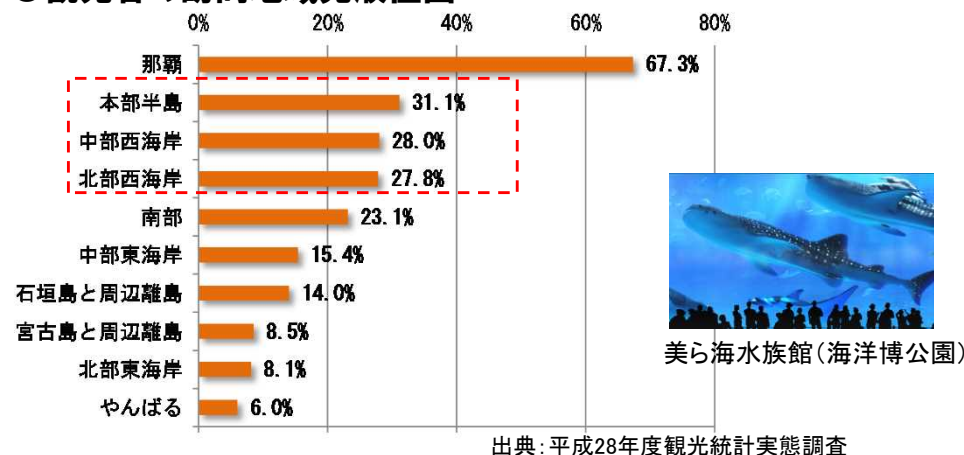
喜舎場スマートIC



3.交通網の整備【観光振興を支援する道路整備】

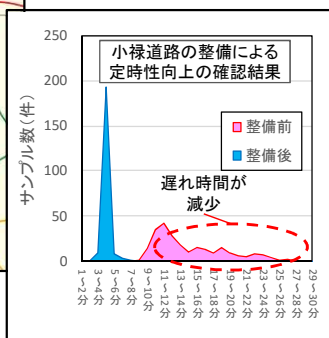
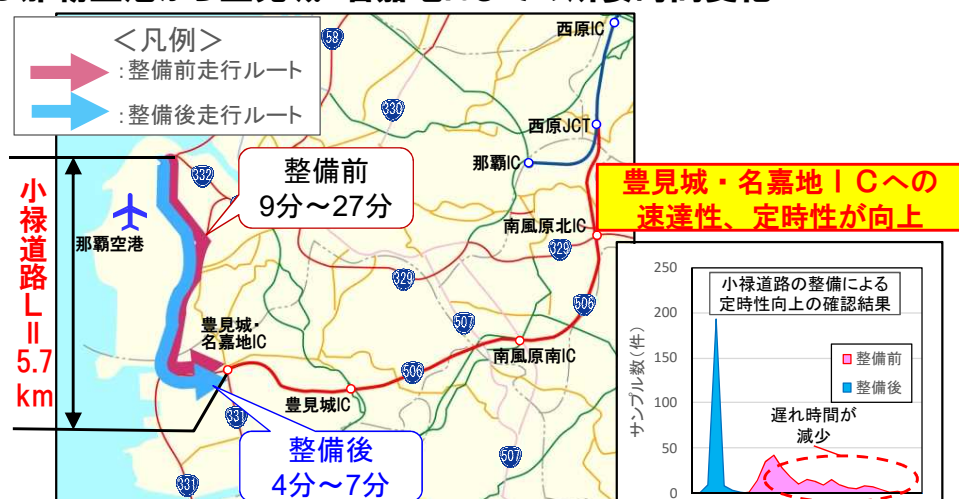
- 観光客の訪問地としては、沖縄本島全域に広がっている。
- 空港～豊見城・名嘉地IC間の所要時間が短縮し、本部半島の観光施設とのアクセス性の向上や定時性の向上により現地滞在時間増加・効率的な観光周遊が期待される。
- 南部地域に点在する観光地のほとんどが30分圏域となるほか、中部地域や恩納村が概ね60分圏域となる。

●観光客の訪問地域先順位図



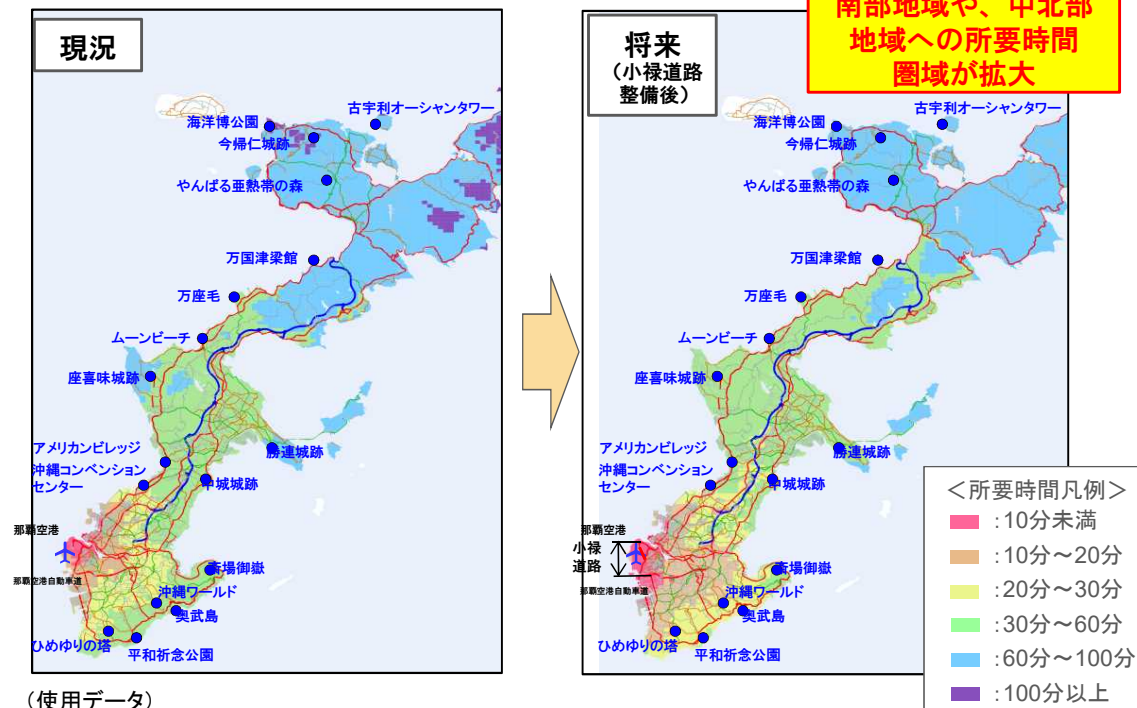
美ら海水族館(海洋博公園)

●那覇空港から豊見城・名嘉地ICまでの所要時間変化



- (使用データ)
 ・民間プローブデータ(H27.4～H27.6)により旅行速度を算出
 ・整備後の小禄道路区間については、那覇空港自動車道供用部の速度を使用。

●沖縄本島の観光地への所要時間圏域



- (使用データ)
 ・民間プローブデータ(H27.4～H27.6)により旅行速度を算出
 ・整備後の小禄道路区間については、設計速度(80km/h)を使用。



【平和祈念公園】



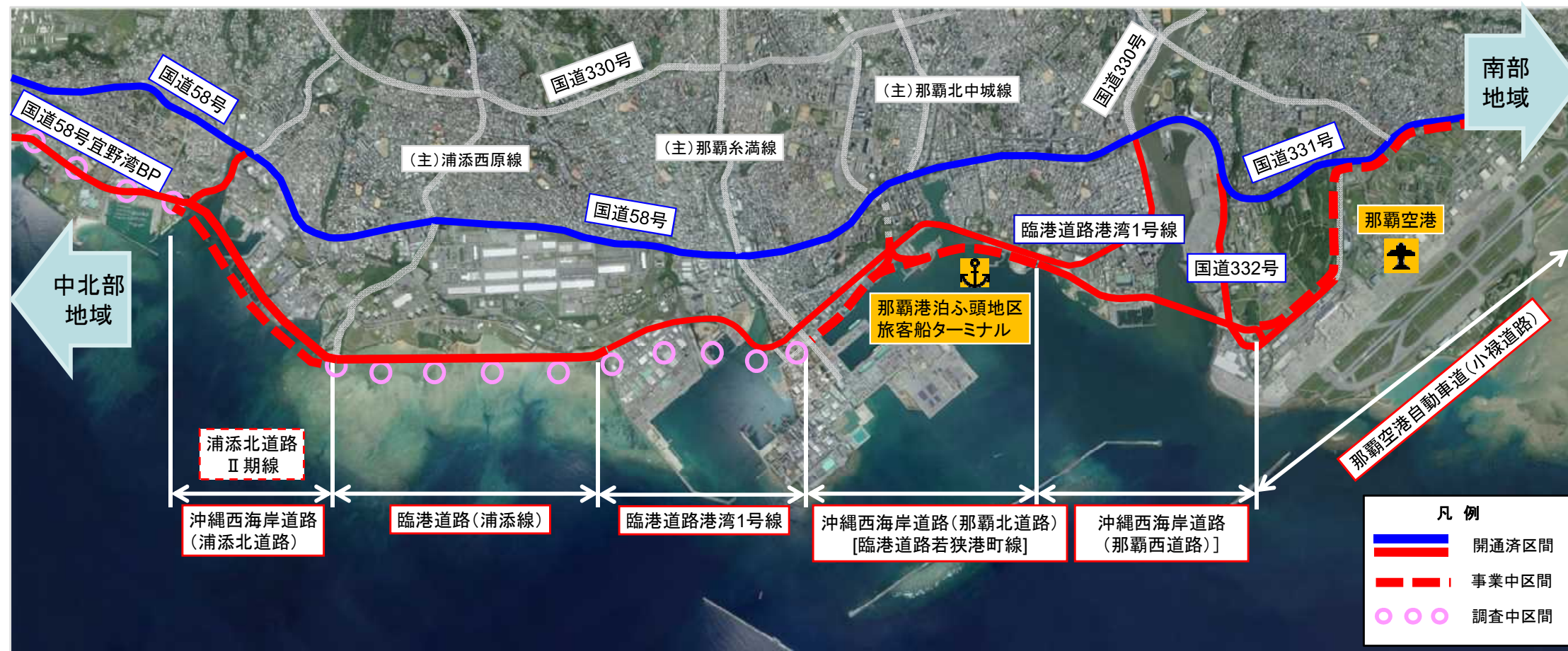
【中城城跡】



【万国津梁館】

- 沖縄西海岸道路及び臨港道路により、西海岸地域の外郭環状道路の機能を強化する。
- 那覇空港や那覇港を含む南北の移動の強化及び、那覇都市圏の渋滞の緩和により、地域経済の活性化に貢献する。

《事業位置図》



4.情報発信の拡充【観光情報満載の「道の駅」】

- 「道の駅」は、休憩やショッピングと合わせて、観光・地域情報を入手するのに最適。
- 「道の駅」は、地元が知る地域の名所等を活かした観光・地域情報発信のキーステーション。

○ 観光案内

- ・観光案内人が常駐し、北部地域全体の観光名所を情報提供。JNTO外国人観光案内所(カテゴリー1)の認定を受け、インバウンド受入に対応(「道の駅」許田)



○ 道路情報・観光情報の提供

- ・タッチパネルによる道路・観光情報提供など役に立つ情報が満載(各駅)



○ 離発着情報の提供

- ・那覇空港に近接しており、出発までの空き 時間を利用して、訪れる観光客も多いため、JAL、ANA等の飛行機発着情報などを提供(「道の駅」豊崎)

離発着情報提供

便名	出発地	定刻	変更	備考	到着
901	東京	09:00	08:58	手荷物受取中	11月7日 09:05
1762	石垣	09:05	08:57		
872	久米島	09:15	09:02		
511	東京	09:20	09:50		
51	福岡	09:35	09:23		
552	宮古	09:40	09:36		
133	成田	09:40	09:25		
600	石垣	09:45	09:43		



- 展望台から極東最大の嘉手納基地への飛行機の離発着が一望でき、多くの観光客や修学旅行生が訪問(「道の駅」かでな)

嘉手納基地



道の駅の展望台

4.情報発信の拡充【進化する「道の駅」(ゲートウェイ型、地域センター型)】

- ドライバーの休憩施設として生まれた「道の駅」は、まちの特産物や観光資源を活かしてひとを呼び、地域にしごとを生み出す核へと独自に進化。
- 「道の駅」による地方創生拠点を形成し、「活力を呼び、雇用を創出、地域の好循環」を目指す。
- 「道の駅」の機能強化を図るため、地域活性化の拠点となる先駆的な取組を重点「道の駅」として平成27年度に道の駅「ぎのざ」平成30年度に新たに道の駅「許田」を選定し、重点的に支援していく。

○ゲートウェイ型【地域外から活力を呼ぶ】

インバウンド観光（観光で人を呼ぶ）

外国人ニーズの高いサービスを提供、訪日観光を促進

外国人観光案内所、免税店、無料公衆無線LAN、EV充電設備、海外対応ATM設置 等

【現在の状況】

- ・無線LAN(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのざ、かでな、喜名番所、豊崎、いとまん)
- ・EV充電器(ゆいゆい国頭、許田、いとまん)

無料公衆無線LAN



観光総合窓口（観光で人を呼ぶ）

地域の観光総合窓口として、地域の価値・魅力を向上

地域全体の観光案内 等

【現在の状況】

- ・北部地域全体の観光案内(許田)
- ・染め織物[ウージ染め]体験(豊崎)
- ・体験機会の窓口(ゆいゆい国頭)



地域全体の観光案内(許田)

地方移住等促進（移住で人を呼ぶ）

地方移住相談や移住体験ツアー窓口の設置、ふるさと納税の情報提供等により、移住を推進

地方移住のワンストップ窓口、ふるさと納税の情報提供 等

○地域センター型【地域の元気を創る】

産業振興（特産品で盛り上げる）

地域特産品を活かしたオリジナル商品開発・販売、観光資源のパッケージ化等による観光ニーズの呼び込み

地域特産品のブランド化、6次産業化、直売所の設置 等

【現在の状況】

- ・オリジナル商品開発・販売(許田)
- ・直売所の設置(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのざ、かでな、豊崎、いとまん)



オリジナル商品の開発・製造・販売(許田)

地域福祉（「小さな拠点」をつくる）

多様な住民サービスを提供、地域を支える小さな拠点

診療所、役場機能の提供、地域公共交通ネットワーク乗継拠点、高齢者住宅の併設 等

防災（防災力を強化する）

災害時に高度な防災機能を発揮、地域の防災拠点化

広域支援の後方支援拠点、防災教育等

【現在の状況】

- ・支援物資集積所、非常時電源、非常階段の設置(許田)
- ・防災拠点施設を整備(いとまん)



非常階段(許田)

○地域活性化の拠点を形成する重点「道の駅」

【全国モデル「道の駅」】

・地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの(H26選定:6駅)

【特定テーマ型モデル「道の駅」】

・特定テーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの(H28住民サービス部門:6駅、H29地域交通拠点部門:7駅)

【重点「道の駅」】

・地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの8(H26選定:35駅、H27選定:38駅、H30選定:15駅)

【重点「道の駅」候補】

・地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの(H26選定:49駅、H30選定:14駅)